虹技、機械加工に参入

門型MC導入、完成品供給

鋳造大手の虹技は11日、姫路東工場（兵庫県姫路市）で機械加工事業を開始すると発表した。2023年1月をめどに門型マシニングセンターを導入、従来社外で行っていた機械加工を社内で行うことで、従来の鋳物素材のみでなく、完成品としてユーザーに提供することで、鋳物製品の付加価値向上と拡販を目指す。

新たに設置する設備は、新日本工機製の門型マシニングセンター「NeoV−6M」。テーブルサイズは600ミリ×3000ミリで、工作物許容質量は30トンまで対応するほか、自動加工ソフトも導入する。

同社では既存加工機を3台保有しているが、新たにマシニングセンターを導入することで、加工精度の向上を実現した。従来、産業機械の鋳物素材としてユーザーに提供していたものが、模型製造から鋳物素材までの工程から、模型製造から鋳物完成品までの一貫生産が可能となる。

新設備では、ギアケーシングや工作機械用鋳物などを加工する。同社では、市場のニーズが拡大していた機械加工を強化することで、鋳物部門の付加価値向上を進め「部門の業績などを勘案しながら、今後も加工機の更新や増設を行っていく」（山本幹雄社長）としている。

設置を進める門型マシニングセンター